

体験プログラムの組み合わせ例

秘密基地作り

小学生～中学1年生

時間	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00
1日目					集合・昼食	オリエンテーリング、森の様子を見よう。森の中の危険な植物等を解説し、秘密基地を作る場所を選定して作業開始。		宿所へ移動
2日目	集合、朝の挨拶。前日の秘密基地作りの続き 班の中から2名で飯ごう炊飯の準備				昼食	弓矢作り: 弓の練習、矢の飛ばし競争、森の探検		宿所へ移動
3日目	集合、朝の挨拶。秘密基地の解体(森を元に戻しましょう)。バームクーヘン作り				終了			
ねらいと補足事項								
<p>ねぎぼうずの秘密基地作りは実際に木を切って基地作りの材料を調達します。こちらから提供するのは縄だけです。これによって自由に想像を働かせ基地を完成させることができます。また実際に木を切ることによって道具の使い方を覚え、下草の整理と里山の手入れにもつながります。自分達が遊びながら役に立っていることを理解させます。そして飯ごう炊飯を組み合わせることによりグループ内での役割分担、それぞれが、グループの中で必要な一員である事を理解してもらいます。</p>								

体験ラリー

小学高学年～中学生

時間	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00
1日目					集合・昼食	ラリーの事前説明、火熾し、三つ又作りの練習、必要に応じてロープワークの講習		宿所へ移動
2日目	集合、ラリー開始。昼食用の飯ごう炊飯に必要な火熾しをまず行い、副食の食材も併せて優先的にゲットする課題を攻める。				昼食	3時のおやつゲットを優先に、残りの課題に挑戦。総合順位、成績発表		宿所へ移動
3日目	自由設定: 項目のクラフト、歴史、その他よりお選びください。				終了			
ねらいと補足事項								
<p>体験することを競技化することで競争心が生まれ、より熱心に取り組めます。また机の上で解決できる問題も実践ではなかなか出来ないようです。知識を知恵にするには体で覚えることが大切と感じています。1日で出来る課題は4～5程度です。</p> <p>組み合わせ例 小学生: 火熾し(昼食用の飯ごう炊飯を含む)、弓矢作りと飛ばし競争、宝探し(ビーコンを使用)、川幅測量(真四角な白い紙)、木登り、ワイヤー渡りなど 中学生: 火熾し(昼食用の飯ごう炊飯を含む)、重量物の移動(滑車)、川幅測量(コンパス)、木登り、宝探し(コンパスを使用) ※ 体験ラリーの組み合わせは別紙プログラム例から自由に組み合わせ出来ます。ロープワークやコンパスなど事前学習が必要なものは前日の夜に1時間程度の学習も出来ます。</p>								

サバイバルキャンプ

小学低学年～中学生 異年齢の班構成が望ましい

時間	6:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00
1日目				集合、キャンプの設営		夕食準備、夕食	自由時間	就寝
2日目	起床、朝食準備、朝食	午前の活動		昼食	午後の活動	夕食準備、夕食	自由時間	就寝
3日目	起床、朝食準備、朝食	チャレンジの日: ハイキング、登山、沢登りなど				夕食準備、夕食	自由時間	就寝
4日目	起床、朝食準備、朝食	午前の活動		昼食	午後の活動	夕食準備、夕食	キャンプファイヤー	就寝
5日目	起床、朝食準備、朝食	キャンプの撤収、キャンプ場の片づけ		昼食	解散			
ねらいと補足事項								
<p>整備されたキャンプ場ではありません。全て自ら行動しなければ食事の用意もできない厳しいキャンプですが、子ども達の成長は目を見張るものがあります。また、異年齢の集団では必ずと年長者は下の子の面倒を見、下の子は先輩の指示に良く従うようになり社会性が身に付きます。</p> <p>活動は、構成されている年齢、学年などに応じて組み立てを行います。</p>								

スキーで森へ行こう

時 間	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00
1日目		集合、スキー靴合わせ	移動	スキーで森歩き、冬の自然観察、森の中でかまくら作り。等 到着時間が昼頃の時は午後からでも可能です。			移動	宿舎
2日目		集合	ゲレンデスキー練習		昼食	ゲレンデスキー練習		移動 宿舎
3日目		集合	移動	近くの山(丘)にショートツアーへ出かけます			移動	帰省準備

ねらいと補足事項

バランス感覚を養う。冬の自然に触れる。厳しい環境の中で生きる力を育む。

踵を固定しないスキーはスキーに寄り掛かったり、支えるものが無いのでスキーの上で自らのバランスをとる必要があります。子どもたちはこんな道具を気にすることもなく短時間で身につけてします。何時も子どもたちの運動能力の高さに驚嘆させられます。また、踵を固定していないので歩くことも走ることも自由ですから、ゲレンデやリフトに頼ることなくのびのびと雪の山野を駆け巡ります。これが本当の子どもの姿ではないでしょうか。